

該当箇所	原案	玉田委員修正案	修正のポイント
2（2）ア 鳥類	対象事業実施区域内の 鳥類多様性が低い	対象事業実施区域内に おける鳥類の多様性が 低い	（文言整理）
	多様度のみを重視した 評価	多様度指数のみを重視 した評価	生態学関係の専門用語ですが 「多様度指数」が正式な用語な ので、ここでは「多様度」では なく、「多様度指数」としてくだ さい。
2（2）イ 鳥類	草原環境が重要な生息 地となっている	草原環境が重要な生息 地のひとつとなっている	「草原環境」だけが重要な環境 というわけではないので、この ような表現が良いと思います。
2（3）ア 猛禽類	オジロワシ等の猛禽類 について年間一定数の 衝突が予測されている ことから、当該衝突が 地域個体群及び広域個 体群に与える影響が懸 念される。	オジロワシについて は、年間一定数の衝突 が予測されているが、 この予測値はかなり高 い値であり、道内各地 で稼働している既設の 風力発電設備で予測さ れていた値より高いこ とから、当該施設が稼 働することにより、猛 禽類の衝突が発生し、 地域個体群及び広域個 体群に与える影響が懸 念される。	準備書で示された予測値が、既 設風車のアセス段階の準備書で 示されている数値より高いこと は、客観的事実（エビデンス） なので、これを示し、市も懸念 している という表現が望ましい と考えます。
2（3）ウ 猛禽類	さらに、検知システム の設置基数、設置位置 及びカバー範囲につい ては、未カバー区域の 存在や	さらに、検知システム の設置基数、設置位置 及びカバー範囲につい ては、未カバー区域が 多く存在し、配置計画 についても効率的な配 置にはなっていないかつ	先の審議会における事業者の説 明では、検知範囲と、風車の稼 働停止との関係が十分に考慮さ れている説明ではありませんで した（事業者の誤解がありまし た）。この点では、システムの配 置計画は、まだ十分な検討がさ れていないと判断されます。こ のことを市としてはっきりと指 摘するべきだと考えます。
2（3）ウ 猛禽類	慎重に判断することが 重要である。	慎重に判断することが 必要である。	「重要」より「必要」の方が、 知事や事業者に対する直接的な 表現になります。

該当箇所	原案	玉田委員修正案	修正のポイント
2（3）エ 猛禽類	（追記）	オジロワシの衝突予測は事業実施区域の西側で、ノスリの衝突予測は東側で高い傾向がある。また、事業実施区域には、ほぼ中央にハチクマ、隣接する地域にオオタカとハイタカの営巣地がある。猛禽類の繁殖を阻害せず、かつ衝突を回避するため、	準備書に示されている客観的事実（エビデンス）を示した方が、このあとに続く配置の見直し、削減について、なぜ市が提案するのがはつきりすると思います。 あわせて、ハチクマなどの営巣地があることを加えてください。
	風力発電設備の配置見直しや設置基数の削減等、影響の回避を前提とした対策について検討が十分になされているかについて疑問が残る。	風力発電設備の配置見直しや設置基数の削減等を含めた、影響の回避のための対策について検討が必要である。	市の姿勢の問題です。「疑問が残る」でもいいのですが、「影響回避のための・・・検討が必要である」の方が具体的で良いのではないかと考えました。
2（3）オ 猛禽類	（項目追加） ※現行の項目「オ」を「カ」に繰り下げ	猛禽類については、年間予測衝突数が高いことや繁殖個体群の保全の観点から、越冬期のみならず、繁殖期、渡り期においても、風力発電設備の稼働制限を検討することが必要である。	先の審議会でも、事業者から稼働制限を検討する旨、説明がありましたが、越冬期のみならず、繁殖期や渡り期の稼働制限についても言及することが望ましいと思います。また、稼働制限は、累積的なリスクより前に書き出した方が良いと思うのでここに書き足しました。
2（3）カ 猛禽類	検討が重要である。	検討が必要である。	（文言整理）
2（6）ア 哺乳類等	（追記）	風力発電設備および関連設備の建設により、シカ及びヒグマ等について、	（追記）
2（6）イ 哺乳類等	農地への出没等の地域生活への影響についても不安が残る。	シカ及びヒグマ等について、農地への出没等の地域生活への影響についても不安が残る。	（追記）